

■ 本文

むかし、男、初冠〔①〕して、奈良の京春日の里に、しるよし〔②〕して、狩りにいにけり。その里に、いとなまめいたる〔③〕女はらから住みけり。この男、かいまみ〔④〕てけり。思ほえず〔⑤〕、ふる里にいとはしたなくて〔⑥〕ありければ、心地まどひにけり。男の、着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

春日野の若紫のすり衣しのぶの乱れ限り知られず〔⑦〕

となむ、おひつき〔⑧〕て言ひやりける。ついでおもしろき〔⑨〕ことともや思ひけむ。

みちのくの忍ぶもぢずり誰ゆゑに〔⑩〕乱れそめにし我ならなくに〔⑪〕

といふ歌の心ばへなり。昔人は、かくいちはやき〔⑫〕みやびをなむしける。

(注) 信夫摺(しのぶず)り…陸奥の信夫郡(今の福島県)特産の、忍ぶ草の茎・葉ですり染めにした、乱れ模様の布。／女はらから…姉妹。／みやび…都会的で洗練された風流な心。

■ 設問 (全20問)

- 傍線部①「初冠」の読みをひらがなで記し、その意味を答えよ。
- 傍線部②「しるよし」を現代語訳せよ。「しる」がどのような意味かを明らかにすること。
- 傍線部③「いとなまめいたる」を現代語訳せよ。
- 傍線部④「かいまみ」について、次の小問に答えよ。
 - これを漢字で書け。
 - どのような行為か、簡潔に説明せよ。
- 傍線部⑤「思ほえず」を現代語訳せよ。
- 傍線部⑥「いと
- はしたなくて」の「はしたなし」の意味として最も適当なものを次から選べ。
ア みつともない イ 中途半端で落ち着かない ウ 恐ろしい エ あつかましい
- 「心地まどひにけり」とあるが、男が「心地まどひ」した理由を、本文に即して二十五字以内で説明せよ。
- 男が「狩衣の裾を切りて」歌を書いたのはなぜか。その狩衣の模様と歌の内容との関係をふまえて説明せよ。
- 第一首「春日野の若紫のすり衣しのぶの乱れ限り知られず」について、次の小問に答えよ。
 - この歌で序詞にあたる部分を抜き出せ。
 - 「しのぶの乱れ」には二つの意味が掛けられている。それぞれ説明せよ(掛詞)。
 - この歌全体を現代語訳せよ。
- 傍線部⑦「限り知られず」の「れ」の文法的説明として正しいものを次から選べ。
ア 自発の助動詞「る」の未然形 イ 受身の助動詞「る」の連用形 ウ 可能の助動詞「る」の未然形 エ 尊敬の助動詞「る」の連用形

11. 傍線部⑧「おひつき」の意味として最も適当なものを次から選べ。
- ア 成長して大人びて イ 追いかけて ウ あわてて エ 年老いて
12. 傍線部⑨「おもしろき」を、ここでの意味に注意して現代語訳せよ。
13. 第二首「みちのくの忍ぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに」は、ある古歌を下敷きになっている。
- (1) このように先人の歌を踏まえて作る和歌の技法を何というか、漢字で答えよ。
- (2) この第二首は、本文中で誰が詠んだ歌として引かれているか。「男が詠んだ歌」か否かを明らかにして説明せよ。
14. 傍線部⑩「誰ゆゑに」を現代語訳せよ。
15. 「乱れそめにし」の「そめ」には掛詞が用いられている。掛けられている二つの意味を答えよ。
16. 傍線部⑪「我ならなくに」について、次の小問に答えよ。
- (1) 「なくに」を文法的に説明せよ（「な」「く」「に」の内訳がわかるように）。
- (2) 「我ならなくに」を現代語訳せよ。
17. 「といふ歌の心ばへなり」とは、どういうことを言っているのか。第一首と第二首の関係をふまえて説明せよ。
18. 傍線部⑫「いちはやきみやび」とはどのような心か。本文全体をふまえて説明せよ。
19. 『伊勢物語』について、次の小問に答えよ。
- (1) 『伊勢物語』のように、和歌を中心にして物語を展開する作品のジャンルを何というか。
- (2) 主人公の「男」のモデルとされ、六歌仙の一人にも数えられる平安初期の歌人は誰か。
- (3) 『伊勢物語』が成立したのはおよそ何時代か。次から選べ。【ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 江戸時代】
20. 本文の内容に合致するものを、次から一つ選べ。
- ア 男は春日の里に住む姉妹に正式に求婚するため、わざわざ都から下ってきた。
- イ 男は美しい姉妹を見て心が乱れ、その動揺をおさえきれずに即座に歌を贈った。
- ウ 男は姉妹から先に歌を贈られたので、その返歌として狩衣の裾に歌を書いた。
- エ 男は自分の歌が古歌の出来には及ばないと恥じ、結局その歌を贈らなかった。